

# 檜葉町小学校運営方針(案)

# 檜葉町の学校運営等について

## I 小学校の現状について

○授業、各種行事は合同で行われており、南小、北小での違いはありません。

○校長は南小学校長が北小学校長を兼務し、教頭は南北小学校にそれぞれ1名が配属されています。

○檜葉中学校と共同で校舎を使用しています。

震災前の北小学校の校舎は震災の影響が大きく、解体をしています。

南小学校の校舎は檜葉まなび館として利用されています。

○児童数(令和元年5月30日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
南小学校	7	5	9	3	9	4	37
北小学校	8	7	2	10	7	11	45
合計	15	12	11	13	16	15	82



合同で開催された運動会。  
南北小それぞれの運動着  
を着用しています。

○ はクラス

※単独学校の場合、複式クラスの可能性があります。

○今後の児童数の推移

現在のおおぞらこども園の就園児数からすると、数名の増減はあるものの当面は20人前後で推移していくものと考えられます。

なお、現在0～4歳児の町内居住者が約140人となっています。今後、町の子育て世代への支援等の取り組みにより、児童の増加が期待できます。

## Ⅱ 検討内容について

### 1. 小学校の統合について

町では、保護者、南北小学校の5、6年生、学校関係者へアンケートやヒアリングを実施しています。その中では統合へ賛成意見が多数を占めており、第2回檜葉町学校運営等検討委員会でも統合に関して、肯定的な意見が多くです。

#### ○統合への主な賛成意見

- ・すでに授業などが一緒に行われているので、あえて小学校を分ける必要はない。
- ・同じ教室で学んでいるのに、運動着の違いなどに違和感がある。
- ・児童数の関係などで、南北小学校の統合問題はいずれまた起きる課題である。
- ・今が決断のタイミングではないか。

#### ○統合への懸念事項

- ・統合した場合、教職員の人数が減少してしまう。

### 町の考え方

児童数の今後の推移、校舎の問題などを総合的に検討した結果、教育の質が低下しないような教職員の配置を前提に、南小学校と北小学校を統合し、新たに(仮称)檜葉町立檜葉小学校を設立したい。

なお、統合にあたっては、南小学校、北小学校が培ってきた歴史、伝統に十分に配慮し、統合後の学校においてもその伝統を引き継いでいくものとします。

### 懸念事項への対応

教職員の適正化(現在と比較すると教職員数が減少する。)に関しては、保護者、児童、教職員それぞれの立場から懸念事項として意見が出されています。

被災地の教育環境の回復のために、引き続き小学校、中学校における教職員の重点的な配置を行うよう国・県に対し、要望をしていきます。

また、教職員が減少した場合でも、教科担任制度の導入などで、教育の質が低下しないよう対応していきます。

## 2. 小学校の校舎について

アンケートやヒアリング、第2回檜葉町学校運営等検討委員会では、現在の中学校校舎での授業継続を望む声が多く聞かれました。児童、保護者からは、慣れ親しんだ校舎への愛着、教職員からは小中学校の連携のしやすさなどの理由が挙げられています。

### 小・中で校舎を共同使用した場合

#### メリット

- ・環境の変化がないため、こどもたちへの負担が少ない。
- ・中学生と一緒に学校生活を送るため、中学進学時のギャップが少ない。
- ・小中共同での学校生活により児童生徒数が多く、校舎内に活気がある。
- ・共同校舎のため、小中の連携がしやすい。

### 小・中で校舎を単独使用した場合

#### デメリット

- ・環境の変化があり、こどもたちへの心理的負担がある。
- ・共同で校舎を使用した場合と比べ環境の変化がある分、中一ギャップが生じやすい。
- ・教職員を含め校舎内の人数が減少するため、使用頻度が低い教室が発生する。
- ・物理的な距離があり、小中連携に支障がある。

#### デメリット

- ・今後は児童・生徒の総人数の増加が見込まれることから、教室、特に特別教室に余裕がなくなり、中学校との調整が必要。
- ・アカデミー福島が令和6年に再開することもあり、現在よりも体育館や運動場の使用に関し中学校と調整が必要。

#### メリット

- ・今後人数が増加しても、対応可能な教室がある。また小学校単独になれば特別教室の使用時に中学校との調整が必要ない。
- ・体育館、運動場ともに単独で使用できるため、制限や中学校との調整が必要ない。
- ・放課後の体育館の利用形態が広がる。

## 町の考え方

平成24年に檜葉小中学校を再開して以降、特に町内での再開以降は同一敷地内の共同校舎での教育に取り組んできました。

共同校舎での教育には、小学校、中学校間での意思疎通、中一ギャップの低減や児童・生徒数が少ない中で活気の創出などの効果がありました。

しかしながら、今後の児童・生徒数の推移、教室や体育館の使用状況などを長期的な視点で見た場合、小学校は南小学校、中学校は現在の校舎で学ぶ環境が良いと考えます。

### 3. 小学校・中学校の連携について

#### 小・中連携教育

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育のことをいいます。檜葉小学校、中学校では、今年度から一部教科で、中学校の先生が小学校の授業を担当しています。

#### 小・中一貫方式

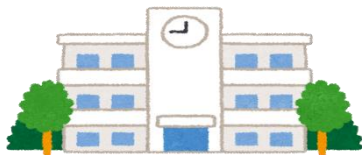
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。

#### 〈例示〉

##### ①義務教育学校

一人の校長、一つの教員組織

修業年限 9年  
(前期課程6年、後期課程3年)



【例】  
郡山市立西田学園義務教育学校

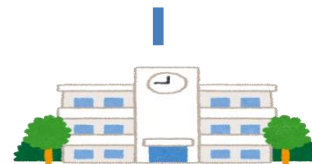
##### ②併設型小学校・中学校(同一の設置者)

それぞれの学校に校長、教員組織

修業年限 小学校6年、中学校3年



中学校  
校長



小学校  
校長

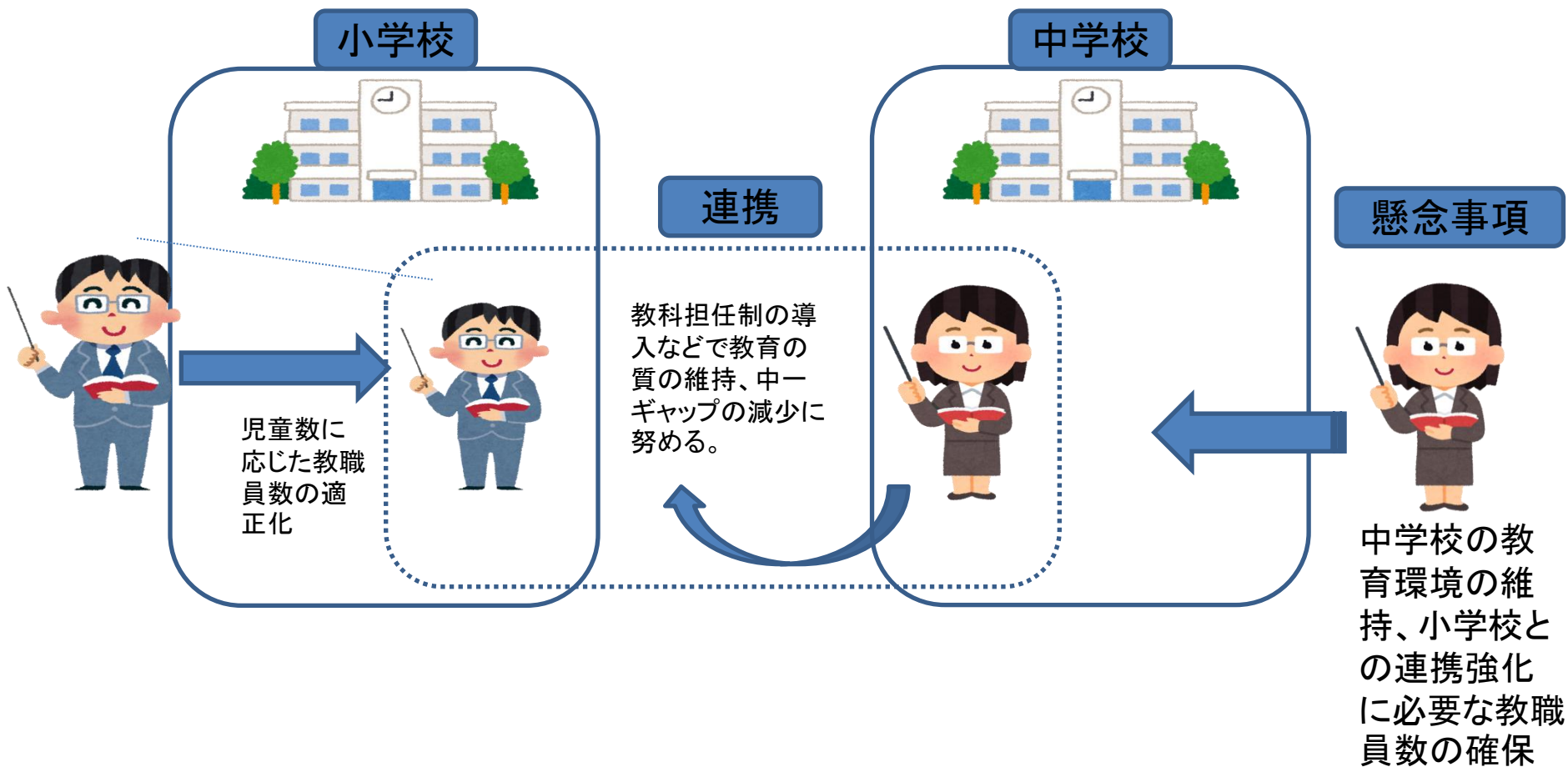
小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件

## 町の考え方

今後しばらくは転入者が増加するものと考えられ、転校してくる児童・生徒への負担を考慮し、当面は小・中連携教育を推進していく方針とします。

なお、将来的な小・中一貫方式の導入を視野に入れた検討を継続して行うこととします。

## 小中連携のイメージ



## Ⅲ 今後の小学校運営方針(案)

### 1. 小学校の統合について

現在の児童数の今後の推移、校舎の問題などを総合的に検討した結果、教育の質が低下しないような教職員の配置を前提に榎葉町立榎葉南小学校と榎葉北小学校を統合し、新たに(仮称)榎葉町立榎葉小学校を設立したい。

なお、統合にあたっては、南小学校、北小学校が培ってきた歴史、伝統に十分に配慮し、統合後の学校においても、その伝統を引き継いでいくこととします。

### 2. 小学校の校舎について

平成24年に榎葉小中学校を再開して以降、特に町内での再開以降は同一敷地内の共同校舎での教育に取り組んできました。共同校舎での教育には、小学校、中学校間での意思疎通、中一ギャップの低減や児童・生徒数が少ない中で活気の創出などの効果がありました。

しかしながら、今後の児童・生徒数の推移を考え、現在の共同校舎では普通教室に空きがなく、1学年30人を超えた場合に対応ができないこと(福島県は30人学級が基本。現在0～4歳児は1学年で30人近い児童数となる)、音楽室等の特別教室や体育館の使用状況などを中長期的な視点で見た場合、小学校は南小学校校舎、中学校は現在の校舎で学ぶ環境が良いと考え、その時期については、国・県との協議を踏まえ令和2年度までに示すこととします。

### 3. 小学校・中学校の連携について

今後しばらくは転入者が増加するものと考えられ、転校してくる児童・生徒への負担を考慮し、当面は小中の連携教育を推進していく方針とします。

なお、将来的な小中一貫方式の導入を視野に入れた検討を継続して行うこととします。